

電車内の迷惑行為に関する観察的検討

— 女性専用車両との比較 —

An observational study of social annoyance behavior in train

北 折 充 隆

Mitsutaka KITAORI

小野寺 理 江

Masae ONODERA

【問題と目的】

電車内は、多くの人が日々経験する公共空間であり、社会の縮図でもある。社会とは、人類がもともと集団生活をする種である以上 (Baumeister & Leary, 1995), 祖先の共同生活体より世代を繰り返した結果、これを構築するに至ったのは必然といえる。あらゆる個人が構成員であることを免れない以上、社会は多様な価値観・志向性を包含するが、特定の価値観が強要されたり、自己利益のみを追求した行動をとれば、他者に大きな損害を与えたり、社会全体に不利益をもたらすことになる。そこで、個人の行動を一定の枠組みでルールとして規制することが、社会の秩序を維持し、利益や権利を等しく保証する上で必要となる (相場, 1969; Cialdini, Bator, & Guadagno, 1999)。こうした規制は一般に社会規範 (Social Norm) と呼ばれ、行為の明白な指針としての機能をはたす (Patkanis & Aronson, 1992)。規制を求めたり、維持しようとしたりすることは、人類にとって生存競争・生殖の両側面においてメリットがあると考えられている (Buss, 1990, 1991)。

ところで、こうした社会規範からの逸脱行

為は、ことさら重大なものは犯罪として処断されるが、ルールとして明文化されているかに関係なく、軽微なものは社会的迷惑行為として、非難の対象となることが多い (北折, 2007)。社会的迷惑行為は、駐車違反やゴミのポイ捨てなど、世の中を見渡せば枚挙にいとまがない。中でも特に、電車内における様々な迷惑行為は、様々な周囲を不快にさせる行為が生じやすいため、時に大きな問題を引き起こすことになる。そんな背景もあってか、1999年には、公共広告機構によるCM“ジコ虫”が、日本新語・流行語大賞トップ10に入賞し、“電車で化粧に励む「メイク虫」”や、“荷物で座席を占拠する「バショトリ虫」”などが取り上げられた。電車内での化粧や座席占有行為は、迷惑行為として強く認知されていることが伺える。

こうした背景もあり、筆者らはこれまで、電車内の迷惑行為に関するいくつかの研究を行ってきた (北折・小野寺, 2009; 小野寺・北折, 2009)。この中で、「悪質だ」「空気が読めない」「見苦しい」「迷惑だ」「無神経だ」といった、5つの評価基準は独立ではなく、互いに関連した概念であることが明らかとなった。また、携帯電話の使用に関して、通話の

悪質性・迷惑評価が極めて高かったのに対し、メールの使用はほぼ床効果を示していた。これは、ペースメカをつけた患者への配慮が考慮されていない結果であるなど、いくつかの興味深い知見も得られた。

しかし、これら一連の研究は全て、大学生を対象とした調査データであり、必ずしも行動側面や実態を反映したデータとは言えない。こうした問題は、調査研究に常につきまとう問題ではあるが、現実場面では、時に正反対の結果を示すこともあり看過できない。例えば、リスクシフトに関する研究では、仮想場面を用いた確率判断を求め、集団討議がリスクを許容する、危険な判断をもたらしやすいことを明らかにした（Wallach & Kogan, 1965; Teger & Pruitt, 1967）。しかし、競馬のオッズを従属変数とした McCauley, Stitt, Woods & Lipton（1973）のフィールド実験では、集団討議を経ると低いオッズの、より安全な馬券を買うコーシャスシフトを示すという、真逆の結果であった。こうした結果を踏まえれば、個人の認知や感情は、調査という手法を用いざるを得ないものの、現実の社会場面における、行動側面を捉える観察研究は非常に重要な意味を持つ。

Table 1 駅や電車内で迷惑と感じられる行為は何ですか？

1 位	座席の座り方	12.6%
2 位	携帯電話の使用	11.6%
3 位	乗降時のマナーについて	10.3%
4 位	ヘッドホンステレオの音漏れ	10.1%
5 位	荷物の持ち方・置き方	9.8%
6 位	電車内で騒ぐ	9.4%
7 位	女性の化粧	6.7%
8 位	所構わず電車の床に座る	5.5%
9 位	環境美化に努めない人が多い	4.7%
10 位	車内等での飲食	4.4%

※ 社団法人日本民営鉄道協会HPより

ところで、これまでの研究において、北折（2008）は迷惑行為を、日本民営鉄道協会の「駅と電車の中の迷惑行為ランキング2005」の上位から抜粋している（Table1）。この研究の中で、迷惑行為の中でも特に、「2. 足を大きく広げて座ったり、荷物を隣に置くなど座席を一人で大きく占領している」「11. ホームで並んでいる列に横入りをする」「12. ドアの付近に座り込んでいる」といった、スペースの侵害行為が最も悪質で、迷惑な行為と評価されることを明らかにした。また、「1. 聞いている音楽がイヤホンから漏れている」「6. 隣の人の肩にもたれて眠っている」「9. 電車内で化粧をしている」などの行為は、迷惑の評定値が5件法中3程度であり、それほど迷惑な行為とはみなされていない。スペースの侵害行為と比較して、これらはどちらかと言えば「見苦しい行為」の範疇であり、横にいて不愉快になることはあるものの、相手に実害が及ぶことはあまりない。こうした背景を踏まえると、強い迷惑行為だと認識されていれば、そうした行為に及ぶのは少数に過ぎず、出現頻度は低いと予測できる。こうした実態を明らかにするには、フィールド観察の手法が有効であろう。

もう一つ重要なのが、例えば電車内の化粧行動などが、その性別が女性に限られる点である。一般的なイメージとしても、化粧の主体や商業的な対象は女性であり、男性が電車内で化粧をすることは、イメージとして想定されていない。従って、電車内の化粧行動で迷惑を及ぼすのは、概ね女性と言うことになり、大きな性差が予想される。そう考えると、近年の鉄道各社で導入が進められている、女性専用車両の存在は、無視できない意味合いを持つ。実は、女性専用車両の歴史は古く、日本においては1912年1月31日に、東京の中央線で朝夕の通勤・通学ラッシュ時間帯に登

場した「婦人専用電車」が最初とされている（東京朝日新聞，1912）。ただしこの「婦人専用電車」は，女子学生が多く乗車する車両を『花電車』と呼び，ラブレターを渡すような男子学生に対処するよう設置されたというのが，その経緯であった。2000年代に入り，車内における迷惑行為や痴漢行為が社会問題として大きく取り上げられ，2000年12月に，京王電鉄京王線で，平日深夜帯に新宿駅を発車する下りの臨時列車最後部に，「女性専用車両」の名で試験的に導入されたのをきっかけに，全国の鉄道事業者に波及した。

迷惑行為の出現頻度を，この女性車両と関連させて考えると，例えば電車内の化粧行動は，男性から見ればみっともない行為であろう。しかし，女性の側から見れば，電車内での化粧は朝の忙しい時間帯の有効活用であるなど，好意的な解釈にもつながりうる。そうであれば，車内での化粧は女性車両で出現頻度が高いと予測できる。

以上を踏まえ，本研究では，電車内の迷惑行為についてその実態を観察し，行動出現頻度などの特徴を明らかにする。特に，女性専用車両と一般車両について，迷惑行為の出現頻度に違いがあるのかを比較検討する。また，実際の電車内観察により，これまで想定できなかった，様々な迷惑行為が明らかにされる可能性があることから，こうした事例を洗い出すことも，本研究の目的の一つとする。

【方法】

本研究の目的は，参与観察を行ない，電車内での迷惑行為の出現頻度など，その実態を明らかにすることにある。従って，下記の手順で実際に電車（女性車両含む）に乗車し，実態を具体的に観察・記録した。なお，プライバシー保護の観点から，一切のインタビューおよび撮影は行っていない。

測定期間 2011年11月上旬～中旬の6日間を抽出した。いずれも土日祝日ではない平日である。

調査の時間帯 朝の通勤，通学ラッシュ帯と考えられる，7時30分～9時00分の間に実施した。

対象車両 本調査では女性専用車両を扱うため，女性を中心とした迷惑行為の観察が中心となる。このため，中京地区では唯一，女性専用車両の走っている名古屋市営地下鉄の東山線にて観察を行った。対象とした女性専用車両は，藤が丘方面先頭から3両目に当たるN1400形（定員106名，座席数37名）の車両である。比較対象とした普通車両は，藤が丘方面先頭から4両目に当たるN1300形（定員106名，座席数37名）である。

対象区間 東山線名古屋駅より，星ヶ丘までを調査区間とした。観察は，乗車から降車までを一区切りとして，折り返し乗車を繰り返して，1日2往復観察を行った。

対象人物 女性を中心として，中学・高校，大学・一般という，2つのカテゴリーに分類し観察した。分類の基準は，主に制服着用か私服着用かである。また，女性の迷惑行為との比較対象として，普通車両における男性の迷惑行為についても，併せて観察を行った。

チェックシート 観察乗車中，予め作成したチェックシートを用意して車内観察を行い，迷惑行為を現認次第，これに記録する形で集計を行った。観察に用いた集計チェックシートをFigure 1に示す。これら21の行為をカウントし，適宜観察中に感じた感想・気付いたことなどの記入を行った。チェックシート基準とした迷惑行為の内訳について下記に示す。

・身だしなみ（化粧・ネクタイなど）：一般にイメージされているような化粧行動に加え，リップクリーム・ハンドクリームな

地下鉄 迷惑行為調査

名古屋⇄星ヶ丘

天気:

	(:)		(:)		(:)		(:)	
	中・高	大・一般	中・高	大・一般	中・高	大・一般	中・高	大・一般
身だしなみ(化粧・ネクタイなど)								
両手携帯、ゲーム機								
本(雑誌、小説など趣味)								
本(手帳、新聞など仕事系)								
勉強								
居眠り								
出入り付近立ち止まり								
床に荷物を置く								
上着の着脱								
会話(大声)								
じゃれ合う								
イヤホン音漏れ								
靴								
楽器・部活道具								
飲食								
足ひろげ、組み								
割り込み								
キャリーバッグ								
傘								
優先席付近での携帯使用								
異臭(香水、体臭など)								
	感想・気付いたこと		感想・気付いたこと		感想・気付いたこと		感想・気付いたこと	

Figure 1 観察で用いたチェックシート

どのOTC（一般医薬品）をつけるなどの簡易行動も、化粧をしていると判断した。また、クシで髪をとく、髪を結う、ワックスなどの整髪剤をつけるなどは、髪の毛や腕が他人に当たるなどを考え、チェックの対象とした。さらに、ハサミで髪の毛をカットしているケースは、座席に座っていたとしてもチェックの対象とした。

- ・**両手携帯やゲーム機**： スマートフォンやゲーム機など、両手での使用が中心となっているものに対してチェックを行った。ただし、座席に座っての使用は対象外である。ただし、音を出して使用している人は、チェックの対象とした。また、片手の使用であっても手すりや、つり革を持っていない、片側の手が荷物で塞がっている、などの不安定な体勢での使用は、急ブレーキや急停止の場合に対応ができず、周囲に迷惑がかかるのでチェックの対象とした。
- ・**本（雑誌、小説など趣味）**： 座席に座って本を読むケースを除き、読書に集中する行動は周囲に配慮ができないため、急ブレーキや急停止の場合に対応できない。このため、立っている乗客で読書をしているケースも、迷惑行為としてチェックした。
- ・**本（手帳、新聞など）**： 新聞は座席に座って、折りたたんで読む場合であっても、ページをめくる行為によって周囲の肩や腕、顔に新聞が当たると想定される。手帳については、座席利用以外についてチェックした。
- ・**勉強**： 急ブレーキや急停止に対応できない、周囲に配慮が向けられないため、単語帳を見ているケースなども含め、チェックの対象とした。ただし、座席に座って勉強しているケースは除外した。ただし、座席に座っていたとしても、必要以上の勉強道具を広げる人についてはチェックの対象とした。

- ・**居眠り**： 隣の人の肩にもたれかかる、体が揺れ何度かぶつかる、いびきをかいている（騒音）、などの行為をチェックした。居眠りによって足が広がった人は、〈足ひろげ・組み〉としてチェックした。
- ・**出入り口付近の立ち止まり**： 車内奥の通路が空いているにもかかわらず、出入り口付近で立ち止まり乗車の妨げになっているケースをカウントした。
- ・**床に荷物を置く**： 混雑しているにも関わらず、車内で床に荷物を置く行為をチェックした。また混雑した車内では、足下に置く行為も降りる際の屈む体勢が迷惑となるため、対象とした。
- ・**上着の着脱**： 混雑した車内での上着の着脱は、周囲に大きな迷惑となる。本研究ではこれに加え、マフラーを外す行動も対象とした。また、仮に混雑していない車両であっても、周囲を確認せず着脱する人は配慮の欠如と見なし、チェックの対象とした。
- ・**会話（大声）**： 周りの人が振り返るかどうかといった、注目する大きさを指標とし、この条件を満たしたケースを対象とした。
- ・**じゃれ合う**： 他人にぶつかるであろう、つつき合う、押し合う、引っ張り合うなどの行為を対象とした。
- ・**イヤホン音漏れ**： 車両の中央から各自の両端へ移動する中で、音漏れを感じた時点でチェックをした。
- ・**鞆**： ショルダーバックやリュックサック、ハンドバックなどを肩、腰に装着したままの人を対象とした。この中で、鞆や荷物が人にぶつからないよう、自分の前へ移動させている人は除外した。
- ・**楽器・部活道具**： 鞆と同じく、他人に配慮している行為が見られた場合は除外した。
- ・**飲食**： あめ玉、ガムは音を立てて食べていた時、出る音が不快なケースはチェック

した。口に含んだ際に出る、あめ玉袋や噛み終わったガムのゴミなどを床に落とす行為は、ポイ捨てとしてカウントした。缶コーヒーやペットボトル、紙コップなどの飲料水は、車両の揺れによってこぼれる可能性があるため、迷惑行為としてカウントした。

- ・ **足ひろげや足組み：** 車内での足をひろげる行動や足組み行動は、座席の幅をとる、靴の汚れが周囲の人についてしまうとしてチェックの対象とした。
- ・ **割り込み：** 車両待ちのホームにて観察を行い、割り込んで乗車する人をカウントした。
- ・ **キャリーバック：** 底が車輪になっているキャリーバックは、電車の揺れなどで動き、他の人に当たるといって形で迷惑が及ぶ。本研究ではキャリーバックを持ち込みながら、動かないように押さえている人はカウントから外し、押さえていないとか、離れたところに置いているケースをカウントした。
- ・ **傘：** つり革をつかんでいる腕に傘をかけている人、つり革に傘をかける人、手すりに傘をかけたものの先部分が通路にはみ出ているケースを、迷惑な傘の持ち方としてカウントした。
- ・ **優先席付近での携帯電話の使用：** 岡部・伊藤（2006）が指摘しているように、判別できない電波通信を行うWebページやデータ通信を行うゲーム、メールの送受信といった画面上のコンテンツ利用については判断できないため、携帯電話を手にもっている時点で使用と見なすこととした。
- ・ **異臭（香水、体臭など）：** 非常に主観的なものではあるが、きついいにおいをまき散らす行為は、明らかに迷惑な行為と見なすことができる。本研究では、観察者の独断になるが、観察中にこれらのにおいを不快と感じた場合、これを迷惑行為としてカウ

ントした。

観察手順 観察者2名が、車両の中央乗車口より車内へ乗り込み、乗客の迷惑にならないよう左右に分かれ、車両の端へ移動しつつ、項目に当たる人をチェックした。また、項目にないが、迷惑だと感じた行動に対しては、その他の欄に記載し新たな項目とした。一区切りの降車後、感想・気付いたことをホームで記入し、両者が書き終わった時点で、折り返し電車に乗り、調査を続けた。列車の時刻は、乗り込む前に全て注記した。調査対象車両は、女性専用車両だけを調査する日、普通車両だけを調査する日と、一日ごとに交互で調査した。

【結果】

本研究の観察データは、基本的に全て集計データであり、原則として、各迷惑行為ごとに χ^2 検定を行った。これらは観察データであり、出現率に大きなばらつきがあるのは、性格上やむを得ない。また、車両に何人の乗客がいたのか、全員をカウントすることは事実上不可能である。このため、分析はまず全ての迷惑行為出現数を合計したものを算出し、その比率とのズレについて検定を行うこととした。出現数が5以下のケースがある場合については、*Fisher's exact test*を実施した。また、いくつかのケースでは出現数が0になったが、これについては分析不能として、有意確率を求めなかった。

女性－男性別に見た迷惑行為出現頻度 各行為について、男女で出現比率に差が見られるのかを検定した。 χ^2 検定を行うにあたり、まず、男女の迷惑行為を全て合計したところ、女性が754ケース、男性が311ケース見られた。そこで、この比率に対して各迷惑行為が、どの程度比率がズレているのかについて検定することで、サンプルの偏りをある程度排除し

た (Table2)。

各々の行為について分析した結果を見ると、まず鞆を肩や腰につけたままで、自分の前に移動させないような女性が、比率として非常に高いことが明らかとなった ($\chi^2(1)=19.66$, $p<.001$)。女性は男性と比べ、鞆を前に持つことがあまりないといえる。また、立ったまま本などを読む行為も女性に多く ($\chi^2(1)=12.16$, $p<.001$)、手帳や新聞などは男性に多い傾向であった ($\chi^2(1)=3.55$, $p<.10$)。また周囲に配慮しない形で勉強している行為は、男性が10以下の出現数であったにも関わらず、女性が多く ($p<.001$)、周囲の人が振り返るほどの声で会話している行為も、女性の方が多かった ($p<.05$)。

以上を踏まえ、これ以降の分析については全て、女性に限りて分析を行うこととした。

女性における生徒—一般別に見た迷惑行為出現頻度 各行為について、制服を着ているため、中学・高校生と推測できる女子群と、私服であるため学生・社会人と推測される一般女性群との間で、出現比率に差が見られるのかについて検定を行った。 χ^2 検定を行うにあたり、まず、それぞれの迷惑行為を全て合計したところ、制服生徒群が255ケース、私服女性群が499ケースであった。そこで、この比率に対して各迷惑行為が、どの程度比率がズレているのかについて検定した (Table3)。

各々の行為について分析した結果を見ると、

Table 2 男性・女性別に見た各迷惑行為の出現数

	女性	男性	χ^2
1. 化粧・ネクタイ (身だしなみ)	26	2	***
2. 両手携帯, ゲーム	106	48	.28
3. 本 (雑誌, 小説など趣味)	90	65	12.16***
4. 本 (手帳, 新聞など仕事系)	30	47	3.55†
5. 勉強	69	8	***
6. 居眠り	74	24	1.05
7. 出入り付近立ち止まり	51	16	.92
8. 床に荷物を置く	23	19	5.22*
9. 上着の着脱	6	0	—
10. 会話 (大声)	37	5	*
11. じゃれ合う	9	5	ns
12. イヤホン音漏れ	6	6	ns
13. 鞆	149	24	19.66***
14. 楽器・部活道具	16	6	ns
15. 飲食	9	3	ns
16. 足ひろげ, 組み	6	16	ns
17. 割り込み	9	1	ns
18. キャリーバッグ	5	3	ns
19. 傘	4	2	ns
20. 優先席付近での携帯使用	24	9	ns
21. 異臭 (香水, 体臭など)	5	2	ns
合 計	754	311	

※ 数値は人数, 分析は合計の比率とのズレを検定した。また, セルに10以下の数値がある場合は, Fisher's exact testを実施した。なお, —は分析不能 † $p<.10$, * $p<.05$, *** $p<.001$

Table 3 一般・生徒別に見た各迷惑行為の出現数

	生徒（制服）	一般客（私服）	χ^2
1. 化粧・ネクタイ（身だしなみ）	6	20	ns
2. 両手携帯，ゲーム	18	88	13.43***
3. 本（雑誌，小説など趣味）	14	76	13.41***
4. 本（手帳，新聞など仕事系）	5	25	*
5. 勉強	51	18	1.84
6. 居眠り	16	58	4.92*
7. 出入り付近立ち止まり	24	27	3.99*
8. 床に荷物を置く	12	11	2.02
9. 上着の着脱	0	6	—
10. 会話（大声）	20	17	2.43
11. じゃれ合う	6	3	ns
12. イヤホン音漏れ	2	4	ns
13. 鞆	57	92	1.31
14. 楽器・部活道具	13	3	1.62
15. 飲食	1	8	ns
16. 足ひろげ，組み	0	6	—
17. 割り込み	3	6	ns
18. キャリーバッグ	1	4	ns
19. 傘	3	1	ns
20. 優先席付近での携帯使用	2	22	**
21. 異臭（香水，体臭など）	1	4	ns
合 計	255	499	

※ 数値は人数，分析は合計の比率とのズレを検定した。また，セルに10以下の数値がある場合は，Fisher's exact testを実施した。なお，—は分析不能 * $p<.05$ ，** $p<.01$ ，*** $p<.001$

最も高い値を示したのは両手携帯・ゲームであり（ $\chi^2(1)=13.43$, $p<.001$ ），次いで雑誌や小説などの立ち読み（ $\chi^2(1)=13.41$, $p<.001$ ），もたれかかっている居眠り（ $\chi^2(1)=4.92$, $p<.05$ ）であった。これらはいずれも，一般女性の方が高い比率を示していた。この他，生徒群の出現数が少ないため，直接確率検定を行ったが，優先席付近での携帯使用は，一般客群の方が有意に多かった（ $p<.01$ ）。そうでないものとしては，出入り口付近での立ち止まり行為は，制服生徒群の方が高い比率を示していた。

名古屋←→星ヶ丘の方向別に見た迷惑行為出現頻度 各行為について，名古屋→星ヶ丘と星ヶ丘→名古屋の方向別で，出現比率に差

が見られるのかについて検定した。 χ^2 検定を行うにあたり，まず，方向別の迷惑行為を全て合計したところ，星ヶ丘→名古屋が410ケース，名古屋→星ヶ丘が344ケースであった。そこで，この比率に対して各迷惑行為が，どの程度比率がズレているのかについて検定することで，サンプルの偏りがある程度排除した（Table 4）。

各々の行為について分析した結果を見ると，立ったまま勉強している人が，星ヶ丘→名古屋において有意に多かった（ $\chi^2(1)=24.50$, $p<.001$ ）。この他，傾向差として，手帳や新聞などに目を通す行為（ $\chi^2(1)=2.91$, $p<.10$ ）や，雑誌や小説を読む（ $\chi^2(1)=2.95$, $p<.10$ ）などの行為が，名古屋→星ヶ丘において多く

Table 4 方向別に見た各迷惑行為の出現数

	星ヶ丘→名古屋	名古屋→星ヶ丘	χ^2
1. 化粧・ネクタイ(身だしなみ)	15	11	.12
2. 両手携帯, ゲーム	45	61	.43
3. 本(雑誌, 小説など趣味)	33	57	2.91†
4. 本(手帳, 新聞など仕事系)	9	21	2.95†
5. 勉強	58	11	24.50***
6. 居眠り	46	28	1.81
7. 出入り付近立ち止まり	31	20	.84
8. 床に荷物を置く	14	9	ns
9. 上着の着脱	2	4	ns
10. 会話(大声)	23	14	.90
11. じゃれ合う	5	4	ns
12. イヤホン音漏れ	4	2	ns
13. 鞆	88	61	1.32
14. 楽器・部活道具	4	12	†
15. 飲食	3	6	ns
16. 足ひろげ, 組み	3	3	ns
17. 割り込み	9	0	—
18. キャリーバッグ	4	1	ns
19. 傘	3	1	ns
20. 優先席付近での携帯使用	10	14	.15
21. 異臭(香水, 体臭など)	1	4	ns
合 計	410	344	

※ 数値は人数, 分析は合計の比率とのズレを検定した。また, セルに10以下の数値がある場合は, Fisher's exact testを実施した。なお, —は分析不能

† $p<.10$, *** $p<.001$

なる傾向にあった。

女性車両—一般車両別に見た迷惑行為出現頻度 各行為について, 女性車両と一般車両で出現比率に差が見られるのかについて検定した。 χ^2 検定を行うにあたり, まず, 車両別の迷惑行為を全て合計したところ, 女性専用車両が603ケース, 一般車両が151ケース見られた。そこで, この比率に対して各迷惑行為が, どの程度比率がずれているのかについて検定することで, サンプルの偏りがある程度排除した(Table 5)。

各々の結果を見るとまず, 大声での会話について有意差が見られ($\chi^2(1)=5.27, p<.05$), 普通車両においてその比率が高かった。また, 10以下の出現数のため直接確率を求めたケー

スでは, 手帳や新聞など, 仕事関係のものを読んでいたケースは女性専用車両に多く($p<.05$), 無配慮に置かれた楽器や部活道具が邪魔になっているケースが, 普通車両において多い傾向が見られた($p<.10$)。

全体の出現数に関する集計結果 観察データ全体を概観すると, 出現数に大きな偏りがあることが分かる。本研究の観察の中で, 男性・女性の合計人数が20人以下の出現率であった迷惑行為は, 「9. 上着の着脱」「11. じゃれ合う」「12. イヤホン音漏れ」「15. 飲食」「17. 割り込み」「18. キャリーバッグ」「19. 傘」「21. 異臭(香水, 体臭など)」の8つであった。これらは一般に迷惑だというコンセンサスが確立されていても, 実態として電車

Table 5 車両別に見た各迷惑行為の出現数

	女性車両	一般車両	χ^2
1. 化粧・ネクタイ（身だしなみ）	20	6	Ns
2. 両手携帯，ゲーム	86	20	.09
3. 本（雑誌，小説など趣味）	72	18	.00
4. 本（手帳，新聞など仕事系）	29	1	*
5. 勉強	59	10	1.32
6. 居眠り	63	11	1.23
7. 出入り付近立ち止まり	37	14	1.76
8. 床に荷物を置く	21	2	1.84
9. 上着の着脱	5	1	ns
10. 会話（大声）	24	13	5.27*
11. じゃれ合う	7	2	ns
12. イヤホン音漏れ	4	2	ns
13. 鞆	121	28	.14
14. 楽器・部活道具	6	10	†
15. 飲食	8	1	ns
16. 足ひろげ，組み	6	0	—
17. 割り込み	6	3	ns
18. キャリーバッグ	4	1	ns
19. 傘	0	4	—
20. 優先席付近での携帯使用	20	4	ns
21. 異臭（香水，体臭など）	5	0	—
合 計	603	151	

※ 数値は人数，分析は合計の比率とのズレを検定した。また，セルに10以下の数値がある場合は，Fisher's exact testを実施した。なお，—は分析不能 † $p<.10$ ，* $p<.05$ ，** $p<.01$ ，*** $p<.001$

内であまり見かけない行為であることが明らかとなった。

【考察】

以上の分析結果を踏まえ，本研究で明らかになったことについて考察する。

まず，大きく差がみられた性差である。いくつかの行為に性差が見られたが，特に女性の方が，カバンなどを横にかけたまま，自分の前に持たない傾向にあることが見出された。電車内で鞆を前に抱えるように持たないことは，ひったくりなどの被害に遭いやすくなるなど，決して望ましいことではない。単純に解釈すれば，女性の方がこうした配慮に欠け，不用心ということになる。しかし，こうした

結果が見られた一因には，男性は痴漢などと間違われまいと，両手が塞がるようにつり革を持ったり，カバンを抱える形で防衛していることなども，その可能性として考えられる。本観察で用いた時間帯は，全てのケースが午前中であった。すなわち，多くの乗客が朝の通勤・通学などで電車に乗っており，混雑した車内である。こうした事情が，男女間の差異を生じさせた大きな理由の一つとして考えられる。特に本観察では，女性は一般車両と女性専用車両の，両方に乗車しているケースが合算されている。もともと，これまで一連の研究の中でも，女性は駐輪違反や信号無視などの逸脱行動を率先して犯す傾向は低く（北折，1999；北折・吉田，2000b），女性専用

車両に乗ってれば、痴漢やひったくりに遭う確率は低い。こうした意識が、鞆を前に抱えないでいた理由の一つであろう。なお、男性について、違反行為を犯す傾向が強いとはいえ、男性全体で見れば、逸脱者はむしろレア・ケースである。多くの男性は痴漢などするはずはなく、むしろ疑われないよう、防衛的に鞆を前に抱える。また、当初の予測通り、化粧行動は圧倒的に女性が多く、男性で化粧の定義を満たす行為をしていたのは2例に過ぎなかった。

次に、女性に限定した分析において、両手携帯や小説などを読む行為は、制服生徒群よりも私服一般群において有意に多かった。この観察中、特に問題になったのが両手携帯であり、何件か危険なケースが観察された。すなわち、両手で携帯電話を操作していたため、電車の減速やブレーキなどでよろめき、周囲にぶつかったりもたれかかる形で、大きな迷惑を及ぼすケースである。スマートフォンと呼ばれる新しい携帯端末が、近年は加速度的に普及してきている。これまでの携帯電話は、多くが片手でプッシュボタンを押す形の操作であり、もう一方の手が空いていたため、つり革に掴まりながらの操作が可能であった。しかし、特にゲームを中心とした、スマートフォンの多くのアプリケーションは、両手で操作することが求められるインターフェースとなっている。こうしたアプリを電車内で利用することが、新たな迷惑行為を生み出している事実は特筆される。この問題を解決するには、アプリケーション側の設計仕様を変更したり、そもそも電車内でそういったアプリを使わないよう啓蒙するなど、新たな対策が今後求められよう。今回の観察で興味深いのが、こうしたスマートフォンの不適切利用に起因した迷惑行為が、特に一般女性群で多かった点である。ゲームなど、中高生などの若年

層がやっているとは一般に見なされがちであるが、スマートフォンに限っていえば、大学生や一般人の方が主流となっていた。まだまだスマートフォンが高価であり、普及途上で制服生徒群が入手しづらいなど、他の理由が考えられる。今後さらなる検討が求められよう。

方向について、星ヶ丘→名古屋の方が反対方向と比べ、勉強をしている人が多かった。方向によってこれほどまでの顕著な差が見られた理由は不明だが、反対方向の名古屋→星ヶ丘は、郊外より名古屋市内の大学に通学する生徒・学生が、この沿線上の高校や大学に通うために乗車することが多い。また逆に、星ヶ丘→名古屋は、名古屋駅周辺の企業などに勤務する人が利用している可能性が高い。こうした違いが比率に差を生じさせた一因と考えられるが、因果関係の説明は困難であろう。今後の検討が必要であろう。

一般車両と女性専用車両別の検討では、一般車両において、大声で会話をする比率が高かった。これは、一般的なイメージとは大きく異なる結果である。周囲が明らかに気にするほどの大声は、女性同士で盛り上がっているようなケースなど、むしろ女性車両において多いと考えられがちである。しかし、一般車両において出現率が多かったことの理由の一つには、女性専用車両が女性しか乗れないことにある。一般に、会話によるコミュニケーションを図ることが必要なのは、カップルや友人同士などといったケースである。女性の友人同士であれば問題はないが、カップルで乗車していた場合、男性と一緒になので女性専用車両には乗車できない。カップルや異性の友人同士であれば、女性専用車両に乗車することはできないことが、一般車両において、大声での会話がなかった背景と考えられる。換言すれば、女性専用車両は女性が安心して乗車できる反面、男性と一緒にいれば乗るこ

とができないため、決して女性に好都合なばかりでもない。本観察では、手帳や新聞などを見ている人が、女性専用車両に突出していたが、これらは単身で乗車しているケースであり、大声での会話と整合する結果である。また傾向差として、楽器や部活道具が邪魔になっているケースは、一般車両の方が多かった。観察を行った日は平日の朝であり、趣味などで社会人がこうした物を持ち込むことは、確率的に極めて低い。そうであれば、本観察で出現したケースは全て、学生か生徒に限られることになる。このように考えると、部活の道具や楽器を持っている女性は、想定的に女性専用車両に乗車していないことになる。なぜそうなるのかは不明であるが、いずれにせよ、一般車両と比して女性車両というのは、車内環境について何か特殊な雰囲気のようなものがあるのかもしれない。

また、全体を概観して、いくつかの項目について明確に出現比率が低く、ほとんど観察されなかったものもあった。これまでの調査研究において、いくつかの迷惑行為を列挙し、その迷惑認知や社会考慮（斉藤，1999）との関連を検討したものも多かった（吉田・斉藤・北折，2009）。しかし、これだけ出現率に差異が見られるのであれば、全ての行為を並列に投入し、回答を求めるのは必ずしも正しくはない。例えば、車内で多く見られるようなイメージを持たれがちだが、足を広げて座ったり、割り込みをするといった行為は、女性についてみれば10以下の出現数であった。こうした行為は人目につきやすく、非常に目立つことが多い。そうであればと、少数サンプルでも多くの人目につくため、多くの人が行っている迷惑行為だと、錯覚されてしまう可能性がある。往々にして、こうした少数だが目立つ行為は、悪質性評価を上昇させやすいのではないだろうか。そういった関連性も含め、

今後検討していく必要があるだろう。

最後に、本研究で明らかにできなかった点が多くあることも付け加えておく。まず、本観察は方法的な限界もある中で、最大限の工夫を重ねたものであった。しかし、やはり車両内の全人数と迷惑行為の比率を算出することが、方法上必要であろう。そういう枠組みで捉えれば、周囲の他者につられる形での、記述的規範の影響（北折・吉田，2000a；2000b）など、本研究では明らかにしなかったメカニズムの作用についても言及できよう。さらに、本研究では21の迷惑行為について集計したが、この他にも様々な迷惑行為が存在する。これらを明らかにしていくことは、尽きることのない重要な課題である。

【引用文献】

- 相場均 1969 異常の心理学 講談社現代新書
Baumeister, R. F., & Leary, M. R. (1995). The need to belong: Desire for interpersonal attachments as a fundamental human motivation. *Psychological Bulletin*, 117, 497-529.
Buss, D. M. (1990). The evolution of anxiety and social exclusion. *Journal of Social and Clinical Psychology*, 9, 196-210.
Buss, D. M. (1991). Evolutionary personality psychology. *Annual Review of Psychology*, 42, 459-491.
Cialdini, R. B., Bator, R. J., & Guadagno, R. E. (1999). Normative influences in organizations. In L. L. Thompson, J. M. Levine, & D. M. Messick (Eds.), *Shared cognition in organizations: The management of knowledge*. LEA's organization and management series. Pp. 195-211.
北折充隆 (1999). 歩行者の交差点における信号無視行動とその態度との関連について —公的・私的自己意識も踏まえて— 名古屋大学教育学部紀要（心理学）46, 197-204.
北折充隆 (2007). 社会規範からの逸脱行動に関する心理学的研究 風間書房
北折充隆 (2008). 電車内の迷惑行為評価に関す

- る検討－悪質行為はKYか？－ 金城学院大学論集（人文科学編）5, Pp.16-26.
- 北折充隆・小野寺理江（2009）. 電車内の迷惑行為に関する研究Ⅱ－状況と正当性評価の関連について－ 日本交通心理学会第74回大会発表論文集 Pp.49-50.
- 北折充隆・吉田俊和（2000a）. 違反抑止メッセージが社会規範からの逸脱行動におよぼす影響について－大学構内の自転車の駐輪違反に着目したフィールド実験－ 実験社会心理学研究 40, 28-37.
- 北折充隆・吉田俊和（2000b）. 記述的規範が歩行者の信号無視行動におよぼす影響 社会心理学研究 16, 73-82.
- McCauley, C., Stitt, C. L., Woods, K., & Lipton, D. (1973). Group shift to caution at the race track. *Journal of Experimental and Social Psychology*, 9, 80-86.
- 小野寺理江・北折充隆（2009）. 電車内の迷惑行為に関する研究Ⅰ－公共空間意識と迷惑行為との関連－ 日本交通心理学会第74回大会発表論文集 Pp.47-48.
- 岡部大介・伊藤瑞子（2006）. ネゴシエーションの場としての電車内空間 松田美佐他編著 ケータイのある風景：テクノロジーの日常化を考える 北大路書房
- Patkanis, A., & Aronson, E. (1992). *Age of propaganda*. Freeman. (社会行動研究会（訳）（1999）. プロパガンダ－公告・政治宣伝のからくりを見抜く－ 誠心書房)
- 斎藤和志（1999）. 社会的迷惑行為と社会を考慮すること 愛知淑徳大学論集 24, 67-77.
- Teger, A. I., and D. G. Pruitt. (1967). Components of Group Risk Taking. *Journal of Experimental Social Psychology*, 3, 189-205.
- 東京朝日新聞（1912）. 婦人専用電車 不良少年の誘惑予防 1月28日付
- 吉田俊和・斎藤和志・北折充隆（編）（2009）. 社会的迷惑の心理学 ナカニシヤ出版
- Wallach, M. A. and N. Kogan. (1965). The Roles of Information, Discussion, and Consensus in Group Risk Taking. *Journal of Experimental Social Psychology*, 1, 1-19.
- ※本論文は、平成23年度卒業生である石田沙織と遠藤有加里による卒業論文のデータの一部を用い、筆者が再分析・まとめ直したものである。記して感謝する。